

14. 新人教育システムの構築について

武蔵野赤十字病院 ○関根 絵里、中村 絢加、高山 慎吾、藤田 寛之
佐藤 恒輔、佐藤 晴美、荒井 一正

【目的】

当院では、2012年度よりプリセプター制度を導入し新人教育を行ってきた。
4年間にわたりこの制度を実施して、検討・修正を加えて新人教育体制の構築を行ったので報告する。

【方法】

指導者によるバラつきをなくすためモダリティ毎に撮影方法の統一を行い、新人がスムーズに業務内容を習得できるようにローテーションを作成した。また、知識を深めるための資料を配布し、臨床業務で必要な感染予防や患者移乗などの勉強会を企画した。指導者間の連絡手段として、院内共有サーバーにファイルを作成し、リアルタイムに情報の記入・意見交換・参照ができるようにした。各モダリティのカリキュラムと新人教育達成度チェックリストを作成し、夜勤業務に従事するまでの教育を行った。

【結果】

指導者による撮影方法のバラつきがなくなり、指導が円滑に行えるようになった。
新人教育達成度チェックリストと共有ファイルの作成により、教育進捗状況・教育未実施項目・指導者間の引き継ぎ・新人による自己評価を簡単に把握することが出来た。また、チェックリストを応用し、実習生を受け入れた際の指導項目表を作成することが出来た。

【考察】

指導者間の連携をはかり、新人の理解度を確認する有用なシステムを作成することが出来た。必要項目の教育忘れがなくなり、教育スケジュールを調整しやすくなった。一方で、指導者以外の技師が介入しにくい環境があり、今後プリセプター制度を取らなくても、放射線科全体で新人を教育できるようなシステムを整えることが課題である。